

(参考資料)

公共用水域の水質汚濁に係る環境基準等

1 人の健康の保護に関する環境基準

(昭和46年12月28日環境庁告示第59号)
(最終改正 平成15年11月5日環境省告示第123号)

項目名	環境基準値	測定方法
カドミウム	0.01 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0102(以下「規格」という。)55に定める方法
全シアン	検出されないこと	規格38.1.2及び38.2に定める方法又は規格38.1.2及び38.3に定める方法
鉛	0.01 mg/ℓ 以下	規格54に定める方法
六価クロム	0.05 mg/ℓ 以下	規格65.2に定める方法
ヒ素	0.01 mg/ℓ 以下	規格61.2又は61.3に定める方法
総水銀	0.0005 mg/ℓ 以下	付表1に掲げる方法
アルキル水銀	検出されないこと	付表2に掲げる方法
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	検出されないこと	付表3に掲げる方法
ジクロロメタン	0.02 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
四塩化炭素	0.002 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,2 - ジクロロエタン	0.004 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法
1,1 - ジクロロエチレン	0.02 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
シス - 1,2 - ジクロロエチレン	0.04 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
1,1,1 - トリクロロエタン	1 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,1,2 - トリクロロエタン	0.006 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
トリクロロエチレン	0.03 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
テトラクロロエチレン	0.01 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,3 - ジクロロプロペン	0.002 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法
チウラム	0.006 mg/ℓ 以下	付表4に掲げる方法
シマジン	0.003 mg/ℓ 以下	付表5の第1又は第2に掲げる方法
チオベンカルブ	0.02 mg/ℓ 以下	付表5の第1又は第2に掲げる方法
ベンゼン	0.01 mg/ℓ 以下	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
セレン	0.01 mg/ℓ 以下	規格67.2又は67.3に定める方法
硝酸性窒素 及び亜硝酸性窒素	10 mg/ℓ 以下	硝酸性窒素にあつては規格43.2.1、43.2.3又は43.2.5に定める方法、亜硝酸性窒素にあつては規格43.1に定める方法
ふっ素	0.8 mg/ℓ 以下	規格34.1に定める方法又は付表6に掲げる方法
ほう素	1 mg/ℓ 以下	規格47.1若しくは47.3に定める方法又は付表7に掲げる方法
備考		
<p>1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。</p> <p>2 「検出されないこと」とは、測定方法の項に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。別表2において同じ。</p> <p>3 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。</p> <p>4 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格43.2.1、43.2.3又は43.2.5により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。</p>		

2 生活環境の保全に関する環境基準

1 河川

(1) 河川（湖沼を除く。）

ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当 水域
		水素イオン 濃 度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質量 (SS)	溶 存 酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 自然環境保全及 びA以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN/ 100ml以下	第1の2の (2)により水域 類型ごとに指定 する水域
A	水道2級 水産1級 水浴 及びB以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/ℓ以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN/ 100ml以下	
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ以下	25mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	5,000MPN/ 100ml以下	
C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ以下	50mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	-	
D	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に掲 げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ以下	100mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	-	
E	工業用水3級 環 境 保 全	6.0以上 8.5以下	10mg/ℓ以下	ごみ等の浮遊 が認められない こと。	2mg/ℓ 以上	-	
測 定 方 法		規格12.1に 定める方法	規格21に定める 方法	付表8に掲げ る方法	規格32に定 める方法	最確数による 定量法	
<p>備考</p> <p>1 基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。</p> <p>2 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/ℓ以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。</p> <p>3 水質自動監視測定装置とは、当該項目について自動的に計測することができる装置であって、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。</p> <p>4 最確数による定量法とは、次のものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。</p> <p>試料10ml、1ml、0.1ml、0.01ml・・・のように連続した4段階（試料量が0.1ml以下の場合には1mlに希釈して用いる。）を5本ずつBGLB醗酵管に移殖し、35～37℃、48±3時間培養する。ガス発生を認めたものを大腸菌群陽性管とし、各試料量における陽性管数を求め、これから100ml中の最確数を最確数表を用いて算出する。この際、試料はその最大量を移殖したものの全部か又は大多数が大腸菌群陽性となるように、また最少量を移殖したものの全部か又は大多数が大腸菌群陰性となるように適当に希釈して用いる。なお、試料採取後、直ちに試験ができないときは、冷蔵して数時間以内に試験する。</p>							

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級
 及び水産 3 級の水産生物用
 水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産 3 級の
 水産生物用
 水産 3 級：コイ、フナ等、 - 中腐水性水域の水産生物用
 4 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの
 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を
 生じない限度

イ

類型	項目	基準値		
		全 亜 鉛		
			該当水域	
生物 A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下		第 1 の 2 の (2)により 水域類型ご とに指定す る水域
生物特 A	生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下		
生物 B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下		
生物特 B	生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下		
測定方法		規格53に定める方法（準備操作は規格53に定める方法によるほか、付表9に掲げる方法によることができる。また、規格53で使用する水については付表9の1(1)による。）		
備考 1 基準値は、年間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）				

(2) 湖沼 (天然湖沼及び貯水量1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖)

ア

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値					該当 水域
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的 酸素要求量 (COD)	浮遊物質量 (SS)	溶存 酸素量 (DO)	大腸菌 群数	
AA	水道1級 水産1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ以下	1mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN /100ml 以下	第1の 2の (2)に より水域 類型に 指定す る水域
A	水道2、3級 水産2級 水浴 及びB以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ以下	5mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN /100ml 以下	
B	水産3級 工業用水1級 農業用水及びCの 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ以下	15mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	-	
C	工業用水2級 環境保全	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと。	2mg/ℓ 以上	-	
測定方法		規格12.1に 定める方法	規格17に定め る方法	付表8に掲げ る方法	規格32に定 める方法	最確数によ る定量法	
備考 水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。							

- (注)
- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境の保全
 - 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2、3級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 - 3 水産1級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産3級の水産生物用
水産3級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
 - 4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
 - 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全りん 燐	
	自然環境保全及び以下の欄に掲げるもの	0.1mg/ℓ以下	0.005mg/ℓ以下	第1の2の(2)により水域類型ごとに指定する水域
	水道1、2、3級 (特殊なものを除く。) 水産1種 水浴及び以下の欄に掲げるもの	0.2mg/ℓ以下	0.01 mg/ℓ以下	
	水道3級(特殊なもの)及び 以下の欄に掲げるもの	0.4mg/ℓ以下	0.03 mg/ℓ以下	
	水産2種及び以下の欄に掲げるもの	0.6mg/ℓ以下	0.05 mg/ℓ以下	
	水産3種 工業用水 農業用水 環境保	1 mg/ℓ以下	0.1 mg/ℓ以下	
測定方法		規格45.2、45.3、45.4 に定める方法	規格46.3に定める方法	
備考				
<p>1 基準値は、年間平均値とする。</p> <p>2 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。</p> <p>3 農業用水については、全燐の項目の基準値は適用しない。</p>				

- (注)
- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 - 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの(「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。)
 - 3 水産1種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
水産2種：ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
水産3種：コイ、フナ等の水産生物用
 - 4 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

ウ

類型 項目	水生生物の生息状況の適応性	基準値	該当水域
		全 亜 鉛	
生物 A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下	第 1 の 2 の (2) により 水域類型ご とに指定す る水域
生物特 A	生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下	
生物 B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下	
生物特 B	生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下	
測定方法		規格53に定める方法（準備操作は規格53に定める方法によるほか、付表9に掲げる方法によることができる。また、規格53で使用する水については付表9の1(1)による。）	

2 海 域 ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当水域
		水素イオン 濃 度 (pH)	化 学 的 酸 素 要 求 量 (COD)	溶 存 酸 素 量 (DO)	大腸菌 群 数	n-ヘキサン 抽 出 物 質 (油分等)	
A	水産1級浴 水自然環境保全及 びB以下の欄に 掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN /100ml以下	検出されな いこと。	第1の2 の(2)に より水域 類型ごと に指定す る水域
B	水産2級工 業用水及びCの欄に 掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/ℓ以下	5mg/ℓ 以上	-	検出されな いこと。	
C	環 境 保 全	7.0以上 8.3以下	8mg/ℓ以下	2mg/ℓ 以上	-	-	
測 定 方 法		規格12.1に 定める方法	規格17に定め る方法(ただし、B類型の工 業用水及び水産 2級のうちノリ 養殖の利水点に おける測定方法 はアルカリ法)	規格32に定 める方法	最確数によ る定量法	付表10に掲げ る方法	
<p>備考</p> <p>1 水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数70MPN/100ml以下とする。</p> <p>2 アルカリ性法とは次のものをいう。 試料50mlを正確に三角フラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液(10w/v%)1mlを加え、次に過マンガン酸カリウム溶液(2mmol/ℓ)10mlを正確に加えたのち、沸騰した水浴中に正確に20分放置する。その後よう化カリウム溶液(10w/v%)1mlとアジ化ナトリウム溶液(4w/v%)1滴を加え、冷却後、硫酸(2+1)0.5mlを加えてよう素を遊離させて、それを力価の判明しているチオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/ℓ)ででんぷん溶液を指示薬として滴定する。同時に試料の代わりに蒸留水を用い、同様に処理した空試験値を求め、次式によりCOD値を計算する。</p> $COD(O_2 \text{ mg/ℓ}) = 0.08 \times [(b) - (a)] \times fNa_2S_2O_3 \times 1000/50$ <p>(a) : チオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/ℓ)の滴定値(ml) (b) : 蒸留水について行なった空試験値(ml) $fNa_2S_2O_3$: チオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/ℓ)の力価</p>							

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
2 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用
水産2級：ボラ、ノリ等の水産生物用
3 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全りん	
	自然環境保全及び以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く。)	0.2mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	第1の2の (2)により 水域類型ご とに指定す る水域
	水産1種 水浴及び以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く。)	0.3mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下	
	水産2種及び以下の欄に掲げるもの (水産3種を除く。)	0.6mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下	
	水産3種 工業用 生物生息環境保全	1 mg/ℓ以下	0.09mg/ℓ以下	
測定方法		規格45.4に定める方法	規格46.3に定める方法	
備考 1 基準値は、年間平均値とする。 2 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。				

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
2 水産1種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される
水産2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される
水産3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される
3 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

ウ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値	該当水域
		全亜鉛	
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/ℓ以下	第1の2の (2)により 水域類型ご とに指定す る水域
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/ℓ以下	
測定方法		規格53に定める方法(準備操作は規格53に定める方法によるほか、付表9に掲げる方法によることができる。また、規格53で使用する水については付表9の1(1)による。)	

3 要監視項目及び指針値

(1) 人の健康の保護に関する要監視項目

項 目	指 針 値
クロロホルム	0.06 mg/ℓ 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/ℓ 以下
1,2-ジクロロプロパン	0.06 mg/ℓ 以下
p-ジクロロベンゼン	0.2 mg/ℓ 以下
イソキサチオン	0.008 mg/ℓ 以下
ダイアジノン	0.005 mg/ℓ 以下
フェニトロチオン(MEP)	0.003 mg/ℓ 以下
イソプロチオラン	0.04 mg/ℓ 以下
オキシ銅(有機銅)	0.04 mg/ℓ 以下
クロロタロニル(TPN)	0.05 mg/ℓ 以下
プロピザミド	0.008 mg/ℓ 以下
EPN	0.006 mg/ℓ 以下
ジクロロボス(DDVP)	0.008 mg/ℓ 以下
フェノブカルブ(BPMC)	0.03 mg/ℓ 以下
イプロベンホス(IBP)	0.008 mg/ℓ 以下
クオルニトロフェン(CNP)	-
トルエン	0.6 mg/ℓ 以下
キシレン	0.4 mg/ℓ 以下
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06 mg/ℓ 以下
ニッケル	-
モリブデン	0.07 mg/ℓ 以下
アンチモン	0.02 mg/ℓ 以下
塩化ビニルモノマー	0.002 mg/ℓ 以下
エピクロロヒドリン	0.0004 mg/ℓ 以下
1,4-ジオキサン	0.05 mg/ℓ 以下
全マンガン	0.2 mg/ℓ 以下
ウラン	0.002 mg/ℓ 以下

平成 5年 3月 8日 環境庁水質保全局長通知
 最終改正 平成16年 3月31日 環境省環境管理局水環境部長通知

(2) 生活環境の保全に関する要監視項目（水生生物の保全）

項 目	水 域	類 型	指 針 値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物 A	0.7 mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.006 mg/ℓ 以下
		生物 B	3 mg/ℓ 以下
		生物特 B	3 mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.8 mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.8 mg/ℓ 以下
フェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.05 mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.01 mg/ℓ 以下
		生物 B	0.08 mg/ℓ 以下
		生物特 B	0.01 mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	2 mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.2 mg/ℓ 以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物 A	1 mg/ℓ 以下
		生物特 A	1 mg/ℓ 以下
		生物 B	1 mg/ℓ 以下
		生物特 B	1 mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.3 mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.03 mg/ℓ 以下

(平成15年11月 5日 環境省環境管理局水環境部長通知)

(参考) 要監視項目は、環境省通知において、現時点では環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものとされており、今後、国等において物質の特性、使用状況等を考慮し体系的かつ効果的に公共水域等の水質測定を行うとともに、測定結果を国において定期的に集約し、その後の知見の集積状況を勘案しつつ、環境基準項目への移行等を検討することとされている。

4 環境基準類型指定状況
 (1) BOD、COD等

区分	水域名	あてはめ水域名	該当類型	達成期間	類型指定年月日
河川	高梁川	高梁川上流 (新見市昭和橋より上流)	A	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
		" 中流 (新見市昭和橋から成羽川合流点まで)	A	イ	" (改訂前 Bイ) H20.3.28改訂 (岡山県告示第173号)
		" 中流 (成羽川合流点から湛井堰まで)	A	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
		" 下流 (湛井堰より下流)	B	イ	"
		西 川 (全域)	A	イ	S54. 4. 6 (岡山県告示第330号)
		小坂部川 (全域)	A	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
		有 漢 川 (全域)	A	イ	"
		成 羽 川 (全域)	A	イ	"
		小田川上流 (淀平堰より上流)	A	イ	"
		" 下流 (淀平堰より下流)	B	イ	" (改訂前 C口) S49. 5.10改訂 (岡山県告示第550号)
		美 山 川 (星田川を含む)	A	イ	S49. 5.10 (岡山県告示第549号)
		里 見 川 (全域)	D	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
	旭 川	旭川上流 (湯原ダムより上流)	A A	イ	S46. 5.25 (閣議決定)
		" 中流 (湯原ダムから乙井手堰まで)	A	イ	"
		" 下流 (乙井手堰より下流)	B	口	"
		新 庄 川 (全域)	A	イ	S53. 4.18 (岡山県告示第332号)
		百 間 川 (全域)	C	ハ	S46. 5.25 (閣議決定)
		砂 川 (全域)	B	口	S51. 4.23 (岡山県告示第365号)
	吉 井 川	吉井川上流 (嵯峨堰より上流)	A	イ	S46. 5.25 (閣議決定)
		" 中・下流 (嵯峨堰より下流)	B	口	"
		加 茂 川 (全域)	A	イ	S52. 4.22 (岡山県告示第347号)
		梶 並 川 (全域)	A	イ	S48. 4.17 (岡山県告示第424号)
		滝 川 (全域)	B	口	"
		吉 野 川 (全域)	A	イ	"
		金 剛 川 (全域)	A	口	"

区分	水 域 名	あてはめ水 域 名	該 当 類 型	達 成 期 間	類 型 指 定 年 月 日
河 川	笹ヶ瀬川	笹ヶ瀬川（全域）	B	八	S49. 5.10 （岡山県告示第549号）
		足守川上流 （前川合流点より上流）	A	八	〃
		足守川下流 （前川合流点より下流）	B	イ	〃
	倉敷川	倉敷川（流入支川を含む）	C	八	〃
	芦田川	高屋川（岡山県の区域内全域）	A	八	S50. 5.13 （岡山県告示第571号）
	伊里川	伊里川（大谷川を含む）	B	口	〃
湖沼	児島湖	児島湖	B	八	S46. 5.25（閣議決定）
海 域	水 島	玉島港区（別記1の水域）	C	イ	S45. 9. 1（閣議決定）
		水島港区（別記2の水域）	C	イ	〃
		水島地先海域(甲) （別記3の水域）	B	イ	〃
		〃（乙） （別記4の水域）	A	イ	〃
	児島湾	児島湾(甲)（別記5の水域）	C	口	S46. 5.25（閣議決定）
		〃（乙）（別記6の水域）	B	口	〃
		〃（丙）（別記7の水域）	A	イ	〃
	備讃瀬戸	備讃瀬戸（別記8の水域）	A	イ	S49. 5.13 （環境庁告示第39号）
	牛窓地先 海 域	牛窓地先海域（別記9の水域）	A	イ	S48. 4.17 （岡山県告示第424号） H16.10.29改訂（地名変更） （岡山県告示第617号）
	播磨灘 北 西 部	播磨灘北西部（別記10の水域）	A	口	S49. 5.13 （環境庁告示第39号）

（備考） 達成期間の分類は、次のとおりである。
イ：直ちに達成
口：5年以内で可及的速やかに達成
八：5年を超える期間で可及的速やかに達成

別記

- 1 玉島灯台と浦賀玉島ヂーゼル工業株式会社敷地西北端を結んだ線より北方の海域（玉島港区）
- 2 川崎製鉄株式会社敷地東南端と宮鼻南端を結んだ線より北方の海域（水島港区）
- 3 灯籠崎南端、上濃地島北端、太濃地島東端、イザノロジ島南端、上水島北端、下水島北端、寄島南端及び青佐鼻東端を順次に結んだ線より北方の海域であって、水島港区及び玉島港区に係る部分を除いたもの。（水島地先海域(甲)）
- 4 水島港区、玉島港区及び水島地先海域(甲)に係る海域を除く水島地先海域（水島地先海域(乙)）

- 5 岡山市海岸通1丁目3番地の13と岡山市飽浦340番地を結ぶ線、児島湖えん堤および陸岸により囲まれた海域（児島湾(甲)）
- 6 岡山市西大寺正儀5203番地と岡山市小串321番地を結ぶ線、児島湖えん堤および陸岸により囲まれた海域であって、児島湾(甲)に係る部分を除いたもの（児島湾(乙)）
- 7 岡山市西大寺宝伝赤石3257番地の2から玉野市沼灰山1015番地の1に至る陸岸の地先海岸であって、児島湾(甲)、および児島湾(乙)に係る部分を除いたもの（児島湾(丙)）
- 8 玉野市出崎と香川県井島へガラ崎を結ぶ線、同島鞍掛鼻と同県豊島ダーダガ鼻を結ぶ線、同島礼田崎と高松市長崎鼻を結ぶ線、福山市狐崎と広島県宇治島西端を結ぶ線、同島南端と香川県三崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域であって箕島町地先海域、番の州泊地、坂出港、高松港、詰田川尻並びに昭和45年9月1日閣議決定の水島港区、玉島港区、水島地先海域(甲)及び水島地先海域(乙)に係る部分を除いたもの（備讃瀬戸）
- 9 瀬戸内市邑久町福谷5288番地から岡山市西大寺宝伝字赤石3257番地の2に至る陸岸の地先海域（牛窓地先海域）
- 10 相生市金ヶ崎と兵庫県西島手繰干崎を結ぶ線、同地点と香川県小豆島藤崎を結ぶ線、同地点と岡山県稲鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（播磨灘北西部）

(2) 児島湖 - 全窒素、全りん

区分	水域名	あてはめ水域名	該当類型	暫定目標 (平成22年度)	類型指定年月日
湖 沼	児島湖	児島湖		全窒素 1.2 mg/ℓ 全りん 0.17 mg/ℓ	S62. 3.10 (岡山県公告第165号) H 4. 3.27 一部改正 (岡山県公告第177号)

(備考) 達成期間は、次のとおりとする。
段階的に暫定目標を達成しつつ環境基準の可及的速やかな達成に努める。

(3) 海域 - 全窒素、全りん

区分	あてはめ水域名	該当類型	達成期間	類型指定年月日	備考
海	水島港区 (別記1)		イ	H 9. 4.28 (環境庁告示第19号) H15. 3.27改訂() (環境省告示第35号)	備讃瀬戸 水域
	水島地先海域 (別記2)		イ		
	備讃瀬戸(イ) (別記3)		イ		
	備讃瀬戸(口) (別記4)		イ		
	備讃瀬戸(ハ) (別記5)		イ		
域	児島湾 (別記6)		イ	H10. 3.20 (岡山県告示第190号) H16. 2.27改訂() (岡山県告示第105号) H16.10.29改訂(地名変更) (岡山県告示第618号)	
	児島湾沖 (別記7)		イ		
	牛窓地先海域 (別記8)		イ		
	播磨灘北西部 (別記9)		イ	H 9. 4.28 (環境庁告示第19号) H15. 3.27改訂() (環境省告示第35号)	播磨灘北 西部水域

(備考) 達成期間の分類は次のとおりとする。

イ：直ちに達成。

口：5年以内で可及的速やかに達成。

ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成。

ニ：段階的に暫定目標を達成しつつ環境基準の可及的速やかな達成に努める。

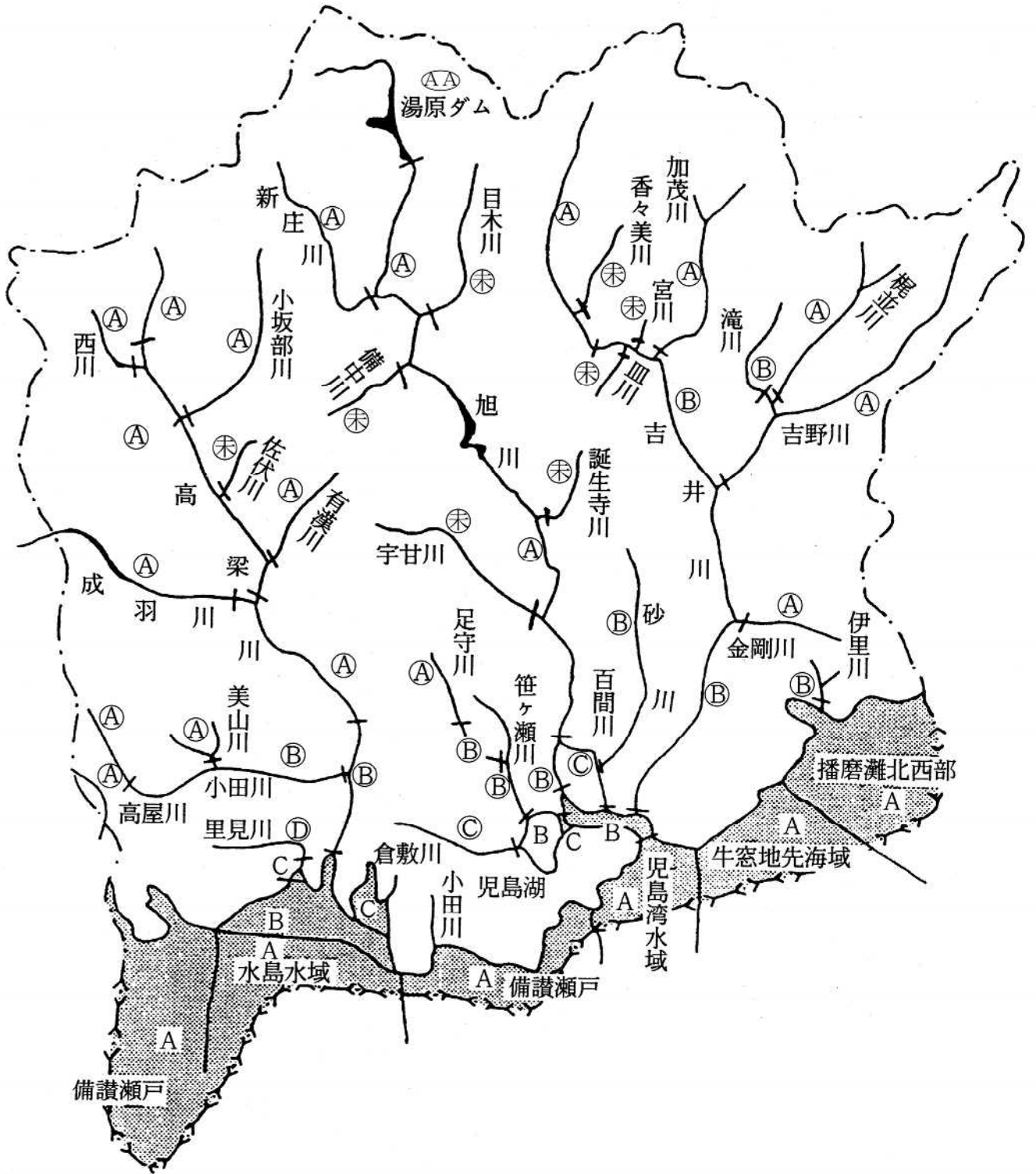
() 海域の全窒素、全りんについては、平成15年3月27日付け環境省告示第35号及び平成16年2月27日付け岡山県告示第105号で達成期間が改正され、暫定目標が廃止された。

別記

- 倉敷市川崎製鉄株式会社敷地東南端と同市宮の鼻南端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域(水島港区)
- 倉敷市灯籠崎南端と岡山県上濃地島北端を結ぶ線、同地点と同県大濃島東端を結ぶ線、同地点と同県イザノロジ島南端を結ぶ線、同地点と同県上水島北端を結ぶ線、同地点と同県下水島北端を結ぶ線、同地点と同県寄島南端を結ぶ線、同地点と同県寄島町青佐鼻東端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域であって、水島港区に係る部分を除いたもの(水島地先海域)
- 玉野市出崎と香川県井島ヘラガ崎を結ぶ線、同島鞍掛鼻と同県豊島ダツダカ鼻を結ぶ線、同島礼田崎と高松市長崎鼻を結ぶ線、倉敷市灯籠崎南端と香川県本島東端を結ぶ線、同地点と坂出市砂弥島北端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域(備讃瀬戸(イ))
- 倉敷市灯籠崎南端と香川県本島東端を結ぶ線、同島カブラサキ鼻と同県広島東端を結ぶ線、同島西端と岡山県真鍋島東端を結ぶ線、同島南端と同県六島北端を結ぶ線、同島南端と同地点から南西方5,900m地点(北緯34度16分59秒、東経133度30分56秒。以下「A点」という。)を結ぶ線、同地点と広島県宇治島南端を結ぶ線、同県西端と福山市狐崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域であって、水島港区、水島地先海域及び箕島町地先海域に係る部分を除いたもの(備讃瀬戸(口))
- 坂出市砂弥島北端と香川県本島東端を結ぶ線、同島カブラサキ鼻と同県広島東端を結ぶ線、同島西端と岡山県真鍋島東端を結ぶ線、同島南端と同島六島北端を結ぶ線、同島南端とA点を結ぶ線、同地点と香川県三崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域(備讃瀬戸(ハ))

- 6 岡山市西大寺正儀5203番地と岡山市小串321番地とを結ぶ線、児島湖えん堤及び陸岸により囲まれた海域（児島湾）
- 7 岡山市西大寺宝伝字赤石3257番地の2から玉野市沼灰山1015番地の1に至る陸岸の地先海域であって、児島湾に係る部分を除いたもの（児島湾沖）
- 8 瀬戸内市邑久町福谷5288番地から岡山市西大寺宝伝字赤石3257番地の2に至る陸岸の地先海域（牛窓地先海域）
- 9 相生市金ヶ崎と兵庫県西島手繰干崎を結ぶ線、同地点と香川県小豆島藤崎を結ぶ線、同地点と岡山県猪ノ鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（播磨灘北西部）

BOD (COD) 等に係る環境基準類型指定概略図



全室素及び全りに係る環境基準類型概略図

